



家具製作

ものづくりマイスター派遣先

岩手県立花巻農業高等学校

〒025-0004 岩手県花巻市葛第1地割68番地

概要 (H29.7 取材当時)

学校長—— 軍司 悟

沿革—— 明治 39 年 稗貫郡会において蚕業講習所
設置の件可決

大正 8 年 稗貫郡立農蚕講習所と改称

大正 10 年 稗貫農学校と改称(宮沢賢治
が教師に着任)

大正 12 年 岩手県立花巻農学校と改称

昭和 27 年 岩手県立花巻農業高等学校と
改称

学科—— 生物科学科、環境科学科、食農科学科

卒業生総数— 21,372 名

教職員数— 56 名



実技指導を行った環境科学科棟

期 間	平成28年9月～10月
実施場所	岩手県立花巻農業高等学校
受講者数	31名(環境科学科1年生の全員)

カリキュラム

指導日	指導内容
1 H28 9/15	木工実技講習(キッチンワゴン)
2 9/29	
3 10/6	
4 10/13	

※2日間の実技指導を2回実施。それぞれ環境科学科1年生の半数ずつが受講。

宮沢賢治の「愛と慈しみの農業教育」を基本にもものづくりを通じて創造力を育てる

花巻農業高等学校は、宮沢賢治が4年間にわたり教鞭をとった歴史を持ち、その「マコトの草の種蒔く人たらん」の精神は現在も受け継がれています。豊かな自然のなかで、生物科学や食農科学、環境科学に関する専門的な技能や知識を磨く場となっています。

バイオ実験施設や食品開発の研究等を通じて、資格取得をはじめ高い専門性と実践力を育成しています。

また、環境科学科では、測量などの土木技術や造園技術をはじめとした自然・環境との調和をめざし、即戦力となる技術を身につける学習をしています。農業クラブ平板測量競技では全国入賞を果たし、測量士補にも岩手県内トップの合格者を出しています。

“創造する力”を育成するうえで、その道のプロから直接指導を受けることは重要なこととして「ものづくりマイスター制度」を活用しています。

受入担当者の声 | 河野 裕 環境科学科 教諭

“木のよさ”を熟知するものづくりマイスターの指導が生徒の可能性を広げる



1年生だからこそ「ものづくり」の経験により視野を広げることが大切

本校では、環境科学科の1年生全員がものづくりマイスターの実技指導を受講しています。この学科では、造園や森林・緑化に関する知識や技能を学習しています。造園の授業では、庭木を刈り取る剪定や庭の管理などを主に実習します。森林・緑化の知識や技能を学ぶには、間伐材などを切って何かを組み立てたり、つくったりすることが大切な作業と考えています。2年生、3年生になると、土木系列と緑化系列のどちらかを選んで、それぞれの実習を受けて資格取得をめざすというように、専門性が高まっていきます。

そのため、1年生のうちに幅広く様々な経験をして、視野を広げておくことは大切です。その方法の一つとして木を使った「ものづくり」を行うことになり、木工実習を始めました。ちょうどその頃に「ものづくりマイスター制度」を知り、3年前から木工製作の実技指導をお願いしています。

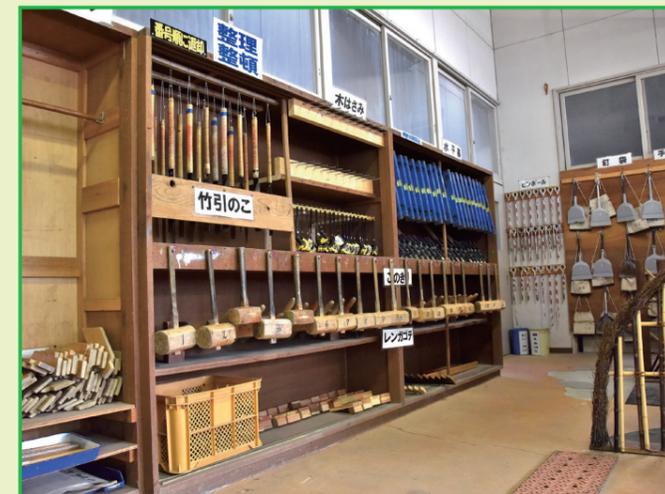
プロの技能と木の匂いや手触りを体感できる

「ものづくりマイスター制度」では、普段、私たち教員

が教えることができない、プロの技能をもったものづくりマイスターに実際に指導していただき、それを生徒たちが勉強できるというのが非常に魅力的です。また、実習にかかった材料費も支援していただけるので、生徒が新たに費用を負担することなく制度を取り入れることができます。

今後、木工製作に興味・関心をもった生徒が木工関係の分野に進む可能性もあります。また、以前はあまりいなかった林業関係の分野に進む生徒もここ何年かで出てきています。

木って、いい匂いがしますし、手触りも温かいですよね。木工製作を通じて、生徒たちも“木のよさ”を肌で感じているのではないかと思います。ものづくりマイスターによる実技指導を取り入れて、生徒たちの将来の可能性が広がったように感じます。

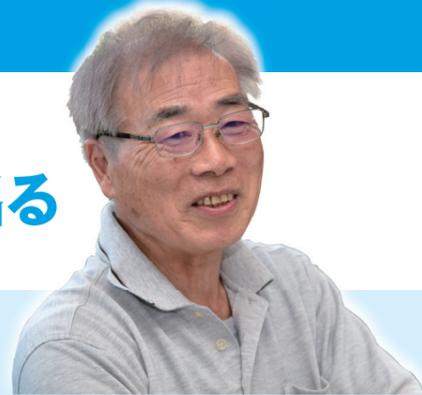


教室にはさまざまな道具が並ぶ



生徒一人ひとりが自分の工具箱を持っている

ものづくりマイスター 上関 晃

楽しくなければ上手にならない
同じ材料・道具・工程でも個性が出るものづくりは道具から始まる
安全な作業は道具を正しく使うことから

私は、建具や家具の製作作業について、基礎的な技能や技術の実技指導を行っています。ものづくりマイスターとして生徒に実技指導をする際に気をつけていることは、まず、生徒がけがをしないことです。

なるべく刃物を使わず、学校に備えてある道具を活用して何をどうつくるか、課題を考えます。花巻農業高校は3年前から指導していますが、最初は庭先に置いて腰掛ける縁台、2年目がティーテーブル、3年目は引き出しとキャスターのついたキッチンワゴンを組み立てました。どれも日常で使える身近な家具です。

伝統的な和家具となれば、作業がまったく違ってきますし、多くの刃物を使わなければなりません。道具によって、ものづくりが決まりますし、ノコギリ一つでも、アメリカ製のものとは体重をかけて押して切りますから力がかかる分、刃が厚く頑丈にできています。一方、日本のノコギリは引いて切ります。刃が薄く、精密に切ることができます。こうした違いを踏まえて扱わないと思わぬけがをします。

一つの家具の組立にも多くの工程があり
順に着実に仕上げていくことが大事

実技指導では、家具1台を3人もしくは4人が1組になって2日間で組み立てます。一つの家具をつくるのにさまざまな工程があるので、一人で全部つくるのではなく、一作業ずつ交代して進めていきます。最初は、ならべてある材料を見ても何ができるかわからない。家具製作には多くの工程がありますから。そして、その順番がとても大事です。例えば、組み立てたら隠れる部分は、組み立てた後では作業ができません。そういった、ものづくりの基本を身につけてもらいたいと思います。

面白いと思ったのは、同じ材料で家具を組み立てるのですが、組み立てた後にいろいろ違いが出てくると

ころです。工作の部分は生徒に任せている部分もあるので、個性が出てくるのです。例えば、テーブルは角の部分が目立つので、角の落とし方一つで印象が違ってきます。また、仕上げに何段階もサンドペーパーをかけますが、時間がなくなるとある程度で終わってしまいます。余裕のある生徒は時間をかけて、きれいにできるのです。そういう部分にも違いが出てきます。

ものづくりは夢をもって楽しく

昨年、宮大工になりたいという生徒が出てきたのには驚きました。

実技指導のなかで、木工や木で何かをつくる分野へ進みたいという生徒が出てくれば、とても嬉しいです。ものづくりには、なるべく楽しく取り組んでもらいたいですね。



上関マイスターの指導の様子

ものづくりマイスター
上関 晃 (うわせき あきら)

昭和21年(1946年)生まれ
平成12年度 岩手県卓越技能者(建具職種)認定
平成25年度 厚生労働省ものづくりマイスター(建具製作・家具製作)認定

受講者の声

プロの道具や技能に感動
一つひとつの工程を精密に粗末にしないで気持ちを込めて
作業することが大切

上関マイスターの工具箱を見せてもらったときに、道具が使い込まれていて、それがきれいでかっこいいと思いました。道具の使い方にしても、いろいろな方法があり、一つのものをつくるのにどれだけ気持ちがこもっているかわかり、勉強になりました。

最初は下手でも、徐々にいいものができるようになっていきます。粗末にしないで、気持ちを込めて作業することが大切だとわかりました。(柏崎さん)

ボンドの使い方一つでも
プロは違う

上関マイスターは木工のプロなので、手際の良さが違います。効率のいい工程をつんでいくのです。確かにこうやれば次の作業が楽になるとか、こうやれば、次に

細かいところまでできるんだと実感しました。ボンドのつけ方にしてもボンドの性能を活かしつつ隠すように、つけるポイントや量をきめ細かく教えてもらいました。

上関マイスターには、実技指導のときにしか会うことが



高橋 稔樹さん



佐々木 楓さん

柏崎 圭佑さん

できないので、ここがポイントだと説明されたところは、全部覚える気持ちでしっかり授業を受ければ、将来、役立つと思います。(高橋さん)

用意された木材の
精密な切り方に関心

上関マイスターは、説明をしながらでも作業を素早くやってしまうのがすごいと思います。受講生みんなに気軽に話してくれますし、作業中もとてもわかりやすく教えていただきました。

実技指導では、材料の板などを接着したり、組み立てたりするのですが、板一枚一枚が精密に切っており、何の調整も必要なく組み立てることができるのです。とても計算されているなど、思いました。実技指導の時間でしか教えてもらえないこともあるので、作業中に自分で考えるのではなく、マイスターにしっかり質問することが必要だと思います。

また、真剣にやるのも大事ですが、楽しくやらないと意味はありません。楽しく作業しながらも、精密な部分は真剣に取り組めば、限られた時間でもおもしろかったという思い出になります。(佐々木さん)

地域技能振興コーナー担当者より

岩手県技能振興コーナー
コーディネーター 小向 隆志



花巻農業高等学校のものづくりマイスターによる木工実技指導は、平成28年度で3年目となりました。現在はものづくりマイスター2人体制をとっています。当初、派遣の依頼を受けた際には、学校側に具体的な指導計画がありませんでしたが、指導計画の作成段階からものづくりマイスターが関わるかたちでカリキュラム

を組みました。

生徒たちは楽しい、やりがいがある、もっと高度な作品をつくってみたいと、ものづくりへの興味・関心が高まったように思います。また、学校側からも、本当に良い学習になった、来年以降もぜひ続けてほしいと大変好評です。